

ウメの平棚仕立てによる軽労働省力化

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

担当者：北村 光康

研究のねらい

ウメの栽培は、近年増加の傾向にあるが、立木仕立てによる栽培では、脚立が必要なため作業中落下の危険性が高く、生産者が高齢化するにつれて深刻な問題となっている。また、収穫時に労力のほとんどが集中し、面積拡大を阻む原因となっている。そこで、平棚仕立てと立木仕立て(開心自然形)との作業性を比較検討した。

研究の成果

- 1 樹当たり剪定時間は、小梅、中梅とも平棚仕立てでは枝の誘引時間が必要なため、立木仕立てと比べてそれぞれ 107%、138%と多くかかった。ただし、剪定の期間は長いため、管理作業上あまり問題にはならない。
- 2 1 樹当たり収穫時間は、小梅、中梅ともに立木仕立てに比べて平棚仕立てが短く、1kg 当たりの収穫時間でみると、小梅では、21%、中梅では27%の省力化となった。
- 3 1 樹及び樹冠 1 m²当たり収穫量は、小梅、中梅とも立木仕立て、平棚仕立て間に大きな差はみられなかった。
- 4 1 果重は、小梅では立木仕立て、平棚仕立てとも差はみられなかったが、中梅では平棚仕立ての方が大果であった。

普及上の留意点

- 1 ウメの平棚仕立ては、立木仕立てに比べて生育期に徒長枝が多く発生するため、樹勢の強い樹では、収穫後の夏期剪定が必要である。
- 2 中梅では、結果過多となった場合小玉となるので、摘果を行う必要がある。

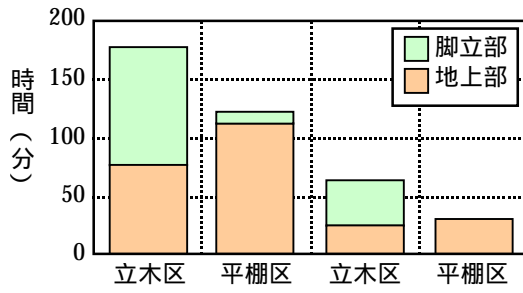


図1 1樹当たり収穫時間

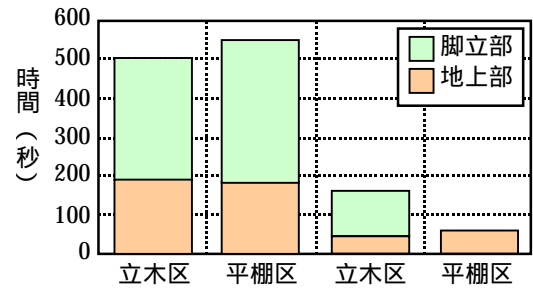


図2 1kg 当たり収穫時間

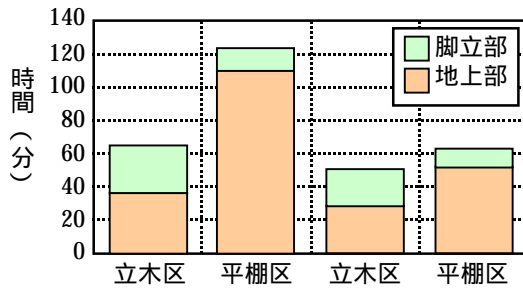


図3 1樹当たり剪定時間

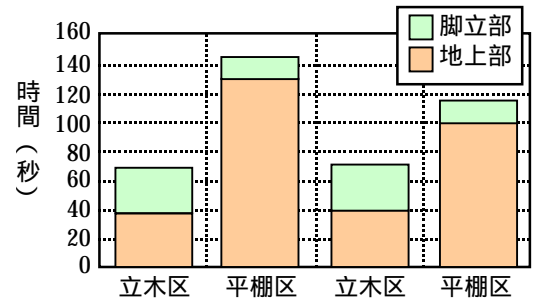


図4 樹冠 1 m² 当たり剪定時間

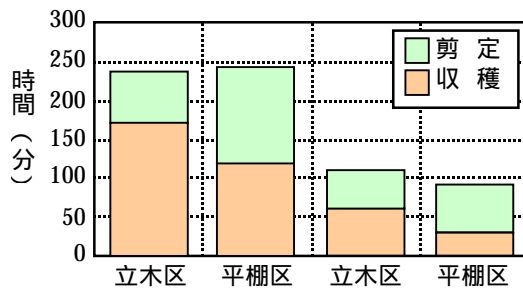


図5 1樹当たり作業時間（収穫・剪定）

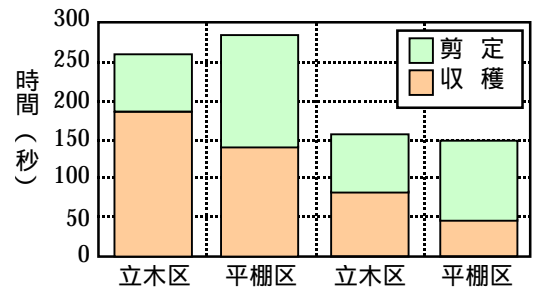


図6 樹冠 1 m² 作業時間（収穫・剪定）

表1 仕立て方が収量に及ぼす影響

		樹冠面積 (m²)	樹当たり収穫量 (kg)	m² 当たり収穫量 (g)	1果重 (g)
小梅	立木区	54.5	45.95	843.1	4.31
	平棚区	53.2	46.80	879.7	4.37
中梅	立木区	47.1	46.80	993.6	19.82
	平棚区	48.7	42.55	873.7	21.98

注：) 平成7年～8年の2年調査